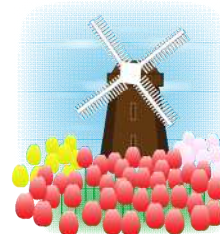


全国保健師長会 栃木県支部だより

発行
全国保健師長会
栃木県支部
平成29年3月1日
第32号



支部長あいさつ

栃木県支部長 樋山 光子 (矢板健康福祉センター)

早春の候、会員の皆様におかれましては平成28年度の事業のまとめ・評価、次年度の事業計画等お忙しいことと思います。

さて、去る2月4日(土)に50名(非会員3名含む)のご参加をいただき、第2回栃木県支部研修会を開催することができました。大勢の方にご参加いただきましたことも皆様のご理解とご協力があったのことに感謝申し上げます。講師の選定につきましては、日本看護協会事務局様からのご支援をいただき、市町村統括保健師人材育成プログラム研修会において講師をされた人見泰生先生をお願いすることが出来ました。統括的立場にある保健師の集まりでもあり、また、日頃の思いを同年代のグループで話せたこともあり会場の熱気も素晴らしく、2月初めにしては天候も暖かかったことも加わり、講師先生におかれましては終了後にお風邪をめされてしまったようです。会員を代表して講師先生に御礼を申し上げます。遠方よりお出でいただき、統括的立場にある保健師の活力となるご講話をありがとうございました。

栃木県支部活動も年に2回発行している支部だより第32号を発行することにより今年度の事業も終了に近づきます。6名の支部役員が集まり、会の運営を検討することも私自身の保健師活動への力となりました。9月24日(土)には高崎市で開催された北関東・甲信越ブロック研修会に参加することが出来ました。研修会前日の懇親会運営から当日の研修会と素晴らしかったこと、保健師のパワーってすごいなと今更ながらに思いました。11月26日(土)には奈良県橿原市で開催された第38回全国保健師長会代議員総会にも参加させていただきました。会員の皆様にもお配りさせていただいた資料集には沢山の情報が載っていると思いました。古都奈良も紅葉の時期であり、僅かな時間ではありましたが社寺を巡ることも出来ました。

何かの機会に『情報は自らとっていくことが大切である』と聴きました。栃木県支部研修会への参加や全国保健師長会の研修会等への参加はまさに自ら情報を得ていくことのひとつと思いました。栃木県支部ではこれからも皆様からのご意見等をいただきながら、会員相互の交流や学び、保健師の活力となるような活動をしてまいりたいと思います。引き続きよろしくお願い申し上げます。

- ♥保健師ジャーナル 2016 No12 特集「統括保健師 めざす姿と課題」是非、ご一読下さい。
- ♥全国保健師長会 ホームページからもたくさんの情報が得られます。



<http://www.nacphn.jp/index.html>

- 平成29年度 総会及び研修会の御案内 -

日時：平成29年5月20日(土) 午後1時30分～

場所：パーティ とちぎ男女共同参画センター

宇都宮市野沢町 4-1



平成28年度 第2回全国保健師長会栃木県支部研修会報告

*日 時：平成29年2月4日(土)
13時30分～16時30分

*会 場：とちぎ健康の森 教室A

*参加者：50名(会員47名、非会員3名)

*講 話：テーマ：「組織の中でのリーダーシップと調整力
～統括保健師としての管理能力を考える～」



*講 師：大阪府枚方市都市整備部戦略監(元健康部長)人見 泰生 氏

行政職の立場から見た「統括保健師」を豊富な経験と高い学識から、熱い辛口で語っていただきましたので、その内容の一部を紹介いたします。

保健師は、行政内部(議会も含めて)で理解と協力を獲得する努力が不足?していますよ!!

行政内部で保健師の仕事はあまり理解されていない!特に幹部職員や議員!

保健師の仲間内で得られる共感!納得!それで満足・安心していませんか?

偶然与えられる機会も大切 意図的に機会を創出する 貴重なチャンスを逃がさない!!

何を一番理解して欲しいか!1分で市・町長の気持ちを動かす練習を(情熱と論理のバランス)

「見る、つなぐ、動かす」

行政の課題を見て、組織・人事・財政をつなげて、自治体経営を動かす!! ついでに議会も動かす!!

統括保健師が進むべき道 いつかは経営職に!!

高度専門職としての殻を破り、経営職の発想、価値観も理解できる幅広い視野を養うための地道な経験と努力。

統括保健師が活躍すべきフィールドは、役所の壁を越え、遙か遠くへ!!

地域社会で多様な専門職が連携できるコア人材(人財)として、地域の医療と介護資源をコーディネートする役割と機能が期待されている。

.....最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるわけでもない、
唯一、生き残るのは変化できるものだけである.....ダーウィン

*グループワーク

テーマ：「日頃の思いを語り、統括保健師の役割について考えよう！」

解ってもらおう努力・・・
欠けていたかも

若いうちから意識しないとね・・・

統括を補佐する人も必要・・・これも人材育成ね



保健師と事務職と一緒に
できるとよいね

統括保健師の研修、栃木
でできたらいいね

実務をしながら統括保
健師・・・現実は大変

参加者の声 ～アンケート結果から～

- ・ 課題に感じていたことが図星であり、具体的な話が聞けて大変良かった。
- ・ 行政の立場から見た保健師の活動状況、強み・弱み等話していただき、気づかされるが多かった。
- ・ 1分間で上司の心を動かす話ができる練習・・・とても参考になりました。
- ・ 他市町や県の状況を詳しく聞くことができ有意義でした。
- ・ 組織の中にどのような保健師を位置づけていくのか考えていきたい。
- ・ 結論を先に！上司に「話を聞いてみたい」と思ってもらえるような話し方のスキルを身につけたい



私にしかできない仕事、私だからできる仕事・・・
皆さん、ぜひ意識しながら保健師活動に取り組んでいきましょう！！



栃木県医療政策課から一言・・・

研修受講管理シート(保健師)の活用状況調査からみえてきたこと

栃木県医療政策課看護職員育成担当 五月女幸子

保健師には、地域特性に応じた高い専門性と行政運営能力が求められており、体系的な人材育成が必要となっています。

栃木県では、「栃木県保健師現任教育指針」の策定により、各階層の到達目標・行動目標に即した教育方法などを示し、推進しているところです。平成28年度からは、研修受講管理シート(保健師)および、【個人用】研修受講管理シート(保健師)(以下、「個人用シート」という。)を導入して、職場・個人それぞれが受講管理できる体制を整えました。

平成29年1月に活用状況を調査し、その結果を踏まえて検討会で意見交換したところ、職場で管理される研修受講管理シートは県内外の研修受講管理に活用されており、概ね予定どおりに研修を受講していることがわかりました。また一部の市町では、新任期の保健師を対象に、研修受講に加え退職保健師の方々を育成トレーナーとして依頼する保健師育成支援事業を活用し、重層的な体制整備を図っていました。一方で、職場内教育(OJT)を実施できる人材の不足、業務多忙などの理由から職場外教育(OFF-JT)への参加の見送りなどがある事もわかりました。

個人用シートは個人管理としているため、職場において活用状況が把握しにくいこと、別様式で同内容を管理している所属があること等、今後の課題とされました。詳細な内容は、後日送付させていただく議事録をご覧ください。お忙しい中、調査にご協力いただいた皆様、また検討会において意見をお聞かせくださった皆様、ありがとうございました。

今後も、皆様のご支援をいただきながら、更に効果的な人材育成を図っていきたくて考えておりますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成 28 年度全国保健師長会研修会及び代議員総会報告

平成 28 年度 全国保健師長会研修会に参加して 副支部長 平石 紀子（宇都宮市役所）

日 時：平成 28 年 11 月 24 日（木）～ 25 日（金） 午前 9 時 30 分～ 15 時 30 分

会 場：奈良県橿原市 橿原ロイヤルホテル

出席者：都道府県等保健所及び市町村に勤務する指導する職にある保健師 約 280 名

今回の研修は、「今、リーダーに問われている保健師の人材育成、期待されること」をテーマに 1 日目は、厚労省の島田室長や元島根県立大学の永江尚美氏、全国保健師長会の青柳会長から講演があり、その後、政令指定都市・保健所・県それぞれの立場からの人材育成の取組みについてシンポジウムがあり、積極的な意見交換がなされた。

ここでは特に、和歌山県橋本保健所所長である池田和功氏の「災害時健康危機管理支援チーム (DHEAT)における保健師の役割について」の講演を報告したい。初めて耳にする情報も多く、演習を交えた内容は、瞬く間に時間が過ぎ大変参考になった。DHEAT は重大な健康危機が発生した際に、被災した自治体の指揮調整部門に入り指揮調整機能を支援するチームである。災害時におきる問題の大部分は、技術・知識の問題ではなく「管理」の問題であり、対策本部がいかにマネジメントできているかが大きな鍵となる。災害時のキーワードは、ICS(災害時マネジメント)、CSCA(組織体制)、METHANE(必要な情報収集項目の略語)の 3 つである。発災直後は少ない参集者で指揮系統を立ち上げることになり経験年数にかかわらず、来た順番に重要なポストを埋める。一番最初に来た人が本部長である。このため、災害初動期に脊髄反射的に行動ができるような、誰でもわかる指示書 AC(アクションカード)を整備しておくことが重要である事。そして、日ごろから一人ひとりの職員の意識の醸成や訓練が必要である。平時に出来ないことは災害時には絶対にできない！県や市、医師会などの関係機関と平時からどれだけ協力関係を築いているかがポイントであり、協力関係は、共同訓練や演習を通じて、人と人をつなぐ日々の活動の中でつくっておくことが、いかに肝要であるかを学んだ。

平成 28 年度 第 38 回全国保健師長会代議員総会に参加して 監事 矢野弥生（大田原市役所）

日 時：平成 28 年 11 月 26 日（土） 午前 9 時 30 分～ 16 時

会 場：奈良県社会福祉総合センター 出席者：代議員、役員他 約 200 名

代議員総会は奈良県橿原市で開催されました。橿原市は初代神武天皇が即位した地という事から皇室参拝の機会も多く、駅には「ようこそ日本のはじまりへ」と記されています。奈良県の地下には歴史が半分残っているそうです。地元の歴史にまつわる開催地市長の来賓挨拶はじめ、各来賓ならではの挨拶がありました。

基調講演は「あらためて地区担当制 保健師の専門性と役割確認」と題してお馴染みの公益社団法人日本看護協会常任理事 中板育美氏の講演でした。社会保障制度改革推進法の基本的な考え方が進められる中で母子、精神全ての人に対応できる自分の地域に見合った地域包括ケアシステムの構築を目指す中で保健師は予防活動として加わる存在である。全てが地区担当制ではなく、地区担当制の浅さをカバーする業務担当制もありながら、地域に暮らす方々の暮らしと命を守る予防活動は普遍的であり、全ての答えは暮らしの中に、人々の中にある。そして地域の中に入り込んでこそ保健師活動である。シンポジウムでは「今こそ 保健師が地区担当する意味を考える。～地区担当に責任をもつとは～」をテーマに 県保健所の取り組み 政令都市の取り組み 市の取り組みとそれぞれの分野別所属での事例の発表でした。午後の総会の議案及び次期役員も承認されました。ブロック活動はエリアに応じた方法で開催し、部会、委員会活動と報告は多岐にわたり全国保健師長会の活動があつてこそ、毎年国への詳細な要望書が提出できる団体なのだ、組織の活動力を肌で感じた一日でした。貴重な機会をいただきありがとうございました。 * 次回開催は新潟県です。

